2025/7/8 改訂

まちのがっこう休日子どもカレッジ

ボランティア支援マニュアル

まちのがっこう
休日子ども
カレッジ

NPO 法人ワークライフ・コラボ

令和4年度「三浦保」愛基金社会福祉分野公募事業

休日子どもカレッジ学生ボランティアマニュアル

休日子どもカレッジとは 2
休日子どもカレッジ概要 2
学生等のボランティアの役割について 2
活動中の注意 3
時間割 3
ボランティアの仕事内容 4
お願い事項 5
個別作業手順書 6
【会場誘導】 6
【お出かけ時】 7
【公園遊び】 7
【自主勉強のサポート】 7
【社会教育プログラムのサポート】 8
【掃除】 8
【帰り支度】 8
【その他事例】 8

まちのがっこう休日子どもカレッジとは

まちのがっこう休日子どもカレッジは、「地域で子育て」を具体化し、子どもたちの体験の補完や地域での居場所づくりを、企業・行政・市民の方々と連携して作っていきます。

まちのがっこう休日子どもカレッジ概要

1. 対象とする子ども

松山市近郊に住む小学1～6年生

2. 人数 65 人程度（1～3 年生 25 名、4～6 年生 40 名）

3. 開校日・開校時間

・小学校の長期休暇（夏休み等）の期間

・8 時 00 分～18 時、延長は 7 時 30 分から、18 時 30 分まで

4. 施設、設備

愛媛大学本部内職員会館（2025 年夏休みより）1階和室、2階大会議室を使用

5. 支援員

リーダー2名、サポーター4名、ボランティアスタッフ数名

学生等のボランティアの役割について

1. 子どもの物理面の安全（物理的危険から守る）
2. 子どもの衛生面の安全（手洗いの励行等）
3. カリキュラム進行の補助（場面が変わるときにスムーズになるような声がけ、支援員がやろうとしていることをくみ取ってのフォロー）
4. 子どもと子どものつなぎ役（「何回つなげかたか」、又は「子どもの新しい関心を引き出したか」が指標）

◆ 子どもが自主的に動くサポート→代わりにやってあげるのではなく、自分でできることは自分でやれるよう見守る・一緒にやる。

◆ 目の前の子どもに集中して相手をする場面があってもかまいません。支援員が広く全体を見る役目を担います。

【子どもとの関わり方（資格より優先していること）】

1. 先入観を持たずに、傾聴できること
2. 子どもの特性を理解し、成長を急がず見守れること
3. 「教える」より「気づき」を大切に
   指示・誘導ではなく、共に学ぶ姿勢であること
4. 小児性愛者でないこと

活動中の注意

【身体接触について】

活動の様子を外部の人が見ることもありますし、いろいろな価値観の人がいることを念頭に置いて行動してください。

・背中に乗せない。

・膝の上に乗せない。

「乗らないでね」と優しく声をかけて下ろしましょう。どうしても乗ってくる場合には立っておくなど乗れない姿勢を取ってください。

・その他の必要以上の接触はしない。

・子どもとの接触は、手をつなぐ程度をベースと考える。

※子どもから抱き着かれても、抱きしめ返さない

※泣いている子どもを慰める場合も抱きしめず、基本は声がけのみ、接触も肩に手を置く程度。

【理由】

① 危険をともなう

② ひとり占め

③ 身体の接触による誤解

【写真撮影について】

スマホで子どもの写真は撮らない、子どもに頼まれても持ち出さない

⇒活動時間中、スマホは荷物の中へ

【個人情報について】

個人情報となる子どもの名前や情報は、活動中以外の場所・人に口外しない

時間割

登校	8 時 00 分～9 時 00 分	自由時間を含む　※9 時までに登校
あさの会	9 時 00 分～9 時 15 分	出席確認・連絡事項
1 時限	9 時 15 分～9 時 35 分	全体活動（カレッジタイム）
2 時限	9 時 40 分～10 時 20 分	自主勉強（宿題や自学）
3・4 時限	10 時 30 分～12 時 00 分	社会教育プログラムもしくは外遊び・制作・ボードゲームなど自分たちでしたい遊びを考える
昼食・そうじ お昼の活動	12 時 30 分～13 時 00 分 13 時 00 分～13 時 50 分	歯磨き
5・6 時限	14 時 00 分～13 時 30 分	社会教育プログラムもしくは外遊び・制作・ボードゲームなど自分たちでしたい遊びを考える

おわりの会	15 時 35 分～16 時 00 分	ふり返り後、おやつ
自由遊び	16 時 00 分～18 時 00 分	帰るまで自由時間

ボランティアの仕事内容

① 8:00～9:35 「子どもの出迎え・教室への送り・あさの会」
② 9:40～12:00「自主勉強・社会教育プログラムのサポート」
③ 13:00～16:00 「そうじ・自由遊び・おわりの会のサポート」
④ 16:00～18:00 「帰るまでの自由遊びのサポート」

時刻	入口での迎え　8：00～	送りは 9：00 まで/あさの会・全体活動は 9：35 まで
① 8:00- 9:35 **入口で出迎え・教室へ案内** **あさの会** **全体活動**	□ **支援員・ボランティア室（小会議室）に荷物を置き、ポロシャツ着用、名札をつけて１階入口へ（スマホは荷物の中へ）** □ 入口で待機し、保護者から子どもの名前を確認し預かる。２階に連れて上がる。 ★出席名簿を支援員からもらってください ★２階の通路奥は立ち入れないようにしています	□ 9:00 までに保護者が連れて来ます。 □ 9:00 を過ぎたら２階の支援場所へ **★１階ロビーは職員のみなさんが出入りしますので入らないこと** **★危険を伴うこともあるため階段や会議室前で遊ばないこと** □ 9:00 からあさの会の見守り（支援員のフォロー） □ 自己紹介
時刻	**自主勉強　9：40～10：20**	**自由遊び 11：00～12：20**
② 9:40- 12:30 **午　前**	□ 各自が決めた学習（春休みの学習等）の見守り □ 自主性を伸ばせるよう、ヒントを与えながらサポート □ 分からないことがあったら手を挙げるので、手が挙がったところへ行ってサポート ★自主勉中は、静かに見守ってください	□ 子ども主体の遊びを見守り、子ども同士が一緒に遊べるように促しながら（子どもたちをつなぐ）一緒に遊ぶ。 □ 一人遊びが好きな子もいるため声掛けしつつ見守る。 □ 屋外での体を使った遊び・支援員と一緒に子どもたちのフォロー
お昼休み　12：00　～　13：00 小会議室（支援員・ボランティア室）で昼食をとる、屋外に出るなど自由に過ごしてください		

時刻	そうじ・お昼の活動　13：00～13：55	社会教育プログラム　14：00～15：30
③ 13:00-16:00 **午　後** **16:00 から中高生ボランティアも参加**	□　お弁当が終わった子から歯みがきの声掛け □　トイレに行く子やごちそうさままでの見守り＆一緒に過ごす。 □　ごちそうさま後のそうじの声掛け □　階段を子どもだけで降りないように気を配る。	□　支援員と一緒に子どもたちのフォロー □　集中できない子、困っている子のフォロー □　プログラムがスムーズに進むように声掛け ※午前に行うこともあります
	おわりの会・おやつ　15：35～16：00	
	□　連絡ノートに振り返りを書くのを促す。 □　おわりの会に集中できるよう声掛け □　一緒に振り返り（子どもの声を聴く） □　おやつの前の手洗い、手洗いの声掛け □　おやつ時の見守り、片付けのフォロー	●16:00（14:00）～中高生ボランティアも来ます

時刻	お迎えまで　16:00～18:00	18：00 で終了
④ 16:00-18:00 **帰るまで**	□　帰宅時間が近づいた子どもは 1 階の和室に移動し待機。帰る準備をしてから連れて降ります。 □　保護者が迎えに来るまで子どもの相手をする。 お迎えが来たら □　支援員が保護者の相手をするため、子どもの帰る準備を促し見守る（忘れ物チェック） ★子どもと一緒に遊んだおもちゃを片付けるときは、子どもに片付けてから帰るように促しサポートをお願いします。	□　開校中は振り返りの時間を取れないため、終了後の**ザツダン交流会**で振り返りをします。 □　「いいところ」を見つけたらどんどん声がけを。子どもたちの自己肯定感が育ちます。 □　気になったことは持ち越さずに支援員に相談してください。LINE でも OK。 ★忘れ物のないよう、気を付けてお帰りください。お疲れさまでした！

お願い事項

当日止むなく欠席・遅刻する場合は、専用携帯（080-5727-4424）へ 7:30 以降に連絡、もしくは留守電にメッセージを入れください。

他大学の学生、社会人ボランティアのみなさんとも協力し合って、子どもたちを安全に見守るようよろしくお願いします！

朝や夕方に保護者の方へにこやかに挨拶をお願いします。（保護者は黄色の名札を付けています）

個別作業手順書

【会場誘導】

① 支援員・ボランティア室（小会議室）に荷物を置き、名札を付けて1階入口前へ
（スマホは荷物の中へ）

② 入口前で待機し、保護者から子どもの名前を確認し名簿にチェックし預かる。

③ 一緒に連れて2階へ上がる。

★低学年は付き添って2階へ連れて行ってください。

★2階の通路奥は立ち入れません。

職員会館 入口

2階はここまで。この先は行けない。

2階大会議室（支援場所）

ボランティア室

9:00～ 9:25 あさの会

松山大学開校時の様子

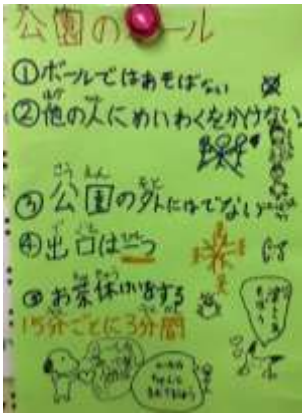
あさの会 自己紹介

【お出かけ時】

- □ 担当班の子どもを中心に安全に配慮する。
- □ 行き帰りの道中は、班長(子ども)を先頭に、後方について移動する。
- □ 担当班を中心に出先でのトイレ等への付き添い（きれいに使う、スリッパ揃える、消灯）
- □ 忘れ物はないか確認する。

【公園遊び】

① 公園遊びに参加する子どもを確認する。
② ホワイトボードに名前を書いてもらう。
③ 班分けをして担当スタッフを決める（支援員、ボランティア 1 人に対して子ども 3 人程度を目安）
④ 公園遊びのルールを子どもと一緒に声に出して読んで確認する。
⑤ 班ごとにエレベーターで下に降りる。エレベーターを降りたところで最後のグループが来るまで待機する。
⑥ 子どもに 1 列に並んでもらう。
⑦ 支援員もしくはボランティアスタッフが先頭と最後について公園に向かう。
⑧ 横断歩道を渡る。
⑨ 公園に着いたら中央入口から入り、子どもと終了時間や約束事項を確認する。
⑩ 遊び時間中は担当班を中心に子どもに目を配る。
⑪ 終了時間 5 分前に声掛けをして集合を促す。
⑫ 人数を確認する。
⑬ 来た時と同じように並んでもらい、教室に戻る。
⑭ 戻った子どもから手洗い(消毒)して教室に入る。



公園内のルール

- 倉庫の裏のフェンスの間から外に出ない（水路あり。すぐに民家の敷地内になるため絶対に出ない）
- ボールで遊ばない
- 回転遊具を回しすぎない
- 出入口は中央入口のみ
- トイレ利用時には大人に声をかける（公園到着時にトイレ内の安全確認をする）
- 他の利用者に迷惑を掛けない

※危険箇所等は見取り図を参照

【自主勉強のサポート】

- □ 挙手をしている子のところにすばやく行く。複数挙がって人手が足りない場合は、「順番で行くからちょっと待っててね」など声をかける。
- □ 1 人の子どもだけに付き添うのではなく、全体を見て困っている子のサポートをする。
- □ 答えを教えるというよりは、答えを導き出す過程を一緒に考えるサポートが望ましい。

- □ 持ってきた自主学習が終わった子には、カレッジの学習プリントをコピーして渡すもしくは読書、お絵かきを促す。（1時間目は読書・お絵かきではなく学習をしようというルールがあります）

※勉強をしていない子がいても、無理にやらせる必要はない（学習塾ではない）。他の子の勉強の邪魔をしている場合には「今は友達と遊ぶ時間ではない」ことを伝える。

【社会教育プログラムのサポート】

- □ 担当が決まっている場合は、担当クラスに入り、支援員のサポートをする。
- □ 困っている子、集中できない子には、声がけし、対応が難しい場合は支援員に相談する。
- □ お出かけプログラムの場合は、担当班の子に目を配る。※【お出かけ時】参照

【掃除】

- □ 自分の担当が分からない子がいたら、一緒に確認する。
- □ 余っている掃除道具があれば一緒に掃除をする。
- □ 片付けまで自分でできるように見守る。

【帰り支度】

- □ 遊びの途中でお迎えが来たら、必要に応じて一緒に片付けをする。
- □ 連絡袋、水筒、お弁当箱、筆箱など、忘れ物はないか声がけする。
- □ 保護者と話す機会があれば、挨拶など声がけする

【その他事例】

① 子ども同士のけんかが起きた場合

言い争いはよくあることなので、無理に止めようとせずまずは子ども同士意見を言い合わせる。
物理的な攻撃（殴る・蹴るなど）になったら間に入って距離を取らせる
周りの子どもたちが仲裁してくれて解決することもあるので、基本は見守る
なかなか解決しない場合には当事者を別の場所に移動させる（支援員が誘導します）
※カレッジでは子どもたちに社会性を身に着けてもらうことも目的としているので、けんかが起こっても大人の介入は最小限にとどめたいと考えています。対応に迷う場合には遠慮なく支援員に声をかけてください。

② 子どもが泣いてどうしたらいいか分からない状態の場合

泣きたいだけ泣いたらケロッと立ち直る子どももいるので、無理に泣き止ませなくてよい
廊下やボランティア控室等に場所を移して話を聞く
※場所を移す場合には支援員に声をかける

③ 子どもが体調不良を訴えた場合

体温を測ってボランティア控室で横にならせる。
たまに、勉強したくないという理由で体調不良を訴える子どもがいるが、こちらでは判断できないの

で、訴えがあった子どもには一律に上記の対応をする。
かゆみを訴える子どもについては、市販薬であっても安易に薬を使用することはできないので、氷で冷やす、絆創膏を貼るといった対応をする。

【ダメなことはダメと伝える勇気】

・命の危険に関わる行為
・自分や相手の心や体を傷つける行為（暴言・暴力）

⇒ その子自身を否定してしまわない伝え方が大切です